

(1) 構造物の耐震化

- コンクリート構造物及び建築物に対する耐震診断
- 耐震診断に基づく耐震補強工事

(2) 管路の耐震化

導送水管、配水本管(φ400mm以上)及び「北九州市地域防災計画」に指定された防災拠点や救急医療機関等へ至る配水管を対象に耐震化工事を進めている。また、北部福岡緊急連絡管、水道トライアングル構想等により、施設における水道水の相互融通を図る事業を実施している。



管路の耐震継手

2 応急給水に係る諸対策

災害時等、広範囲に断水が発生した場合において、全市民に7日分(1人あたり46リットル)の飲料水を確保できるように、応急給水に係る諸対策を実施している。

○災害時における飲料水を確保する施設

災害時においても、市内14か所で合計46,000㎡の飲料水を確保することとしている。

【4浄水場】

井手浦浄水場、穴生浄水場、畑浄水場、本城浄水場。

【東西連絡管】(3か所)

【7配水池】

次の配水池には緊急遮断弁を設置し、応急給水に必要な飲料水を確保する。

小森江配水池、高見配水池、沼配水池、大谷配水池、山ノ神第1配水池、日峰配水池、藤ノ木配水池。

緊急遮断弁



この緊急遮断弁は、一定の震度と流量を感知し、自動で全閉する機能を有する弁であり、この機能により、各配水池の半分の量を飲料水として確保するもの。

避難場所等での応急給水では、1㎡ポリエチレンタンクで飲料水を運搬し、仮設水槽、仮設給水栓及び非常用給水袋を用い被災住民等に飲料水を供給する。

また、治療に水道水を必要とする医療機関等に対しては、ポンプ付き給水車で応急給水を行うこととしている。

- 1㎡ポリエチレンタンク(53個の備蓄)
- 1㎡仮設水槽(24基の備蓄)
- 非常用給水袋の整備(32,900袋以上の備蓄)
- 仮設給水栓(94基を確保)
- ポンプ付き給水車(2台)



1㎡ポリエチレンタンク



非常用給水袋(6L)



ポンプ付き給水車

3 北部福岡緊急連絡管事業

福岡県西方沖地震(平成17年3月20日)を契機に、福岡県知事、福岡市長、北九州市長の三者による合意のもと、早期事業化が決定された。

地震等の自然災害や水道施設事故などの緊急事態に対する危機管理対策として、本市と福岡都市圏の間約47キロメートルを、M7クラスの内陸直下型地震に対応可能な連絡管で結ぶもので、福岡県と本市が共同し、平成18年度に事業着手した。

北九州市内は本市が工事施工し、市外の工事は連絡管を布設する道路や河川を管理している福岡県が施工した。

緊急連絡管により、緊急時には本市と福岡都市圏との間で、1日当たり最大5万㎡の水道用水を相互融通することが可能になり、緊急時においても最も基本的なライフラインが確保された。